

はせさんず

2011 冬号 NO.56

ニュース

2011年11月22日(火)発行
 NPO法人たすけあい大田はせさんず
 理事長 坂口 郁子
 〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
 はせさんず(会員制) 03-5747-2610
 ヘルパーステーション 03-5747-2816
 ケアサポート 03-5747-2800
 デイホーム 03-5747-2660
 元氣かい 03-5747-2605
 FAX専用 03-5747-2620

敬老会 & 職員バンド デイホーム「敬老の日」週間



何が始まるのかしらと、昼食を終え、ゆったりと時間を過ごしていた利用者は目を見張っていました。テーブルが片付けられ、小さな人形やくだもの・自動車・動物などの写真が台に飾られていきます。室内の真中には、天井から点数の付いた輪がぶら下がって

利用者に楽しんでもらうのにも職員で演奏ができないかと話し合い実現。司会者、キーボード、アコースティックギター、ベースギターの4人が決まりました。普段から顔なじみの職員なので利用者には親しみと安心感があつたようです。

9月19日〜24日の「敬老の日」週間に行われたレクリエーションやボランティアの演目、そして「職員バンド」の演奏、その場面でも利用者の笑顔がありました。喜寿・米寿・卒寿を迎えた利用者の元氣さに触発されて、他の利用者や職員もいつにない充実したイベント週間を体験できました。

利用者の歌う大きな声や拍手子、一曲一曲終わるたびの拍手に、職員も元氣をもらいます。終わってからも利用者から「とてもよかったわよ」と声がかかり、うれしく思いました。これからも練習を重ねて、恒例行事の顔にしていきたいと思えます。



はせさんずデイホーム 新施設長より挨拶 新留信弘

私は介護業界に転職し6年余り、主にデイサービス業務に従事してまいりました。このたびに入職にあたり、はせさんずが『たすけあい』活動に端を発し、今も地域社会に根差した幅広い活動を行っていることを知りました。介護保険の

枠にとらわれずに本来に必要とされるサービスを提供していく、そのために組織の枠を超えたネットワークを強化しようという考え方は、これまでの私の経験にはないもので、今後私自身が学んでいかなくてはならないと思っております。まずは、デイホームに通所されているご利用者にも少しでも元氣になっていただけるよう、心のこもったサービスを心がけてまいります。よろしくお願い致します。



大田区職員のNPO現場体験研修で10月上旬の5日間、計9名が来所しました。この研修は大田NPO活動団体交流会の会員団体として他の14団体とともにひきうけたものです。今年に入職2年目の若い世代の職員でみない意欲的に感じられました。

大田区職員研修「現場体験研修」

は高齢者や障害者の自動車での送迎に同乗してもらいました。移送活動はたすけあい活動で行っているため、福祉NPOの本分として、NPOは困っている人に必要とされる活動をしていると理解してくる活動ではないかと思えます。この体験が、これから経験を積みベテランになっていく職員のみならずとNPOのよりよい協働につながっていくことを願っています。

石巻市雄勝の仮設住宅に 被災者の話を聞く

石巻市雄勝の仮設住宅に被災者がバス3台で秋田県男鹿半島の温泉地に出かける小旅行を、公益財団法人さわやか福祉財団が主催。9月30日〜10月2日の二泊三日。はせさんずでは8月に2週間、仮設住宅をまわり雄勝の人たちと交流しました。この旅行にも4名が参加。当日は男鹿観光ホテルに滞在し、オプショナルツアーあり、夕食会での催し物ありで、参加者100名余は被災してから初めての温泉旅行に心からの笑顔でした。家族を失った人、家を流された、仕事も失った人、復興の見通しは全く立っていないと不安を抱えた人たちですが、震災から6ヶ月が過ぎて、旅行で久しぶりに知人に会えたなどバスの中でもお隣り同士、笑い声が絶えませんでした。太平洋岸の雄勝から日本海岸男鹿の海を見に来て、それでもやっぱり雄勝



の海ほどよいところはないと、すべてを失った故郷自慢で花が咲きました。夜の宴会後に茶話会を開きました。これから雄勝でどんな町づくりをするのか、グループごとに熱心に話し合いました。この話し合いをさわやか福祉財団でまとめ「石巻市に対する復興に関する要望書」として作成し、堀田理事長から石巻市長に手渡し、石巻市長からは早急な結果を出す約束が交されました。冬がそこまで来ましたが、今後も雄勝の人たちと関わっていくこととなります。(坂口)

東洋大学からインターンシップ

東洋大学法学部3年生2名が9月9日～22日の9日間、会員制たすけあい事業や介護保険事業など、NPOの事業を実務体験しました。移送サービスや訪問介護サービスに同行したり、コーディネート会議に参加したり、元氣かいの見学をしたり。



デイホームでは、初対面の利用者との視線を合わせて熱心に傾聴。さらに得意なわざを生かしたレクリエーションを企画、実践。剣道の得意な稲村さんは、持参した竹刀の説明

移送サービス活動日誌

篠田明夫

新米活動会員です。私の兄は小児麻痺による幼年期からの障害者で、10年前から大田区福祉のお世話で群馬県渋川市内の施設に入所。若い頃からこの兄の移送は私の仕事で散髪や歯科医や病院通いをしています。大田区報で移送の活動が紹介された折に、今までの経験が少しは役に立つかもしれないと思い、はせさんずの会員になりました。

利用者に喜んでもらうために気をつけていること。①丁寧に明るい挨拶「おはようございます」、②慌てさせないように「ゆっくりで大丈夫ですよ」の声かけ、③後部座席



第1回市民後見人養成講座

をしながら「えい！」と構えてみせ、利用も見て触って、一緒に楽しむました。



「短期間でしたが、いろいろな人と出会い、興味深い体験をして、大変参考になりました」と2人の感想。今後、自分にふさわしい職業を選んで活躍することを期待します。

第2回市民後見人養成講座

講座開催のお知らせ

12月18日から池上会館で全6回の講座を開催します。受講生受付中。

事務局だより
9月16日付で長島陽代さんが常勤のデイホーム相談員になりました。

10月1日に採用の新留信弘さんは11月16日付でデイホーム施設長に就任。前デイホーム施設長の田中正英さんは11月30日付で退職となります。

忘年会のお知らせ
恒例のはせさんず忘年会を開催します。
日時：12月13日(火)
場所：池上会館
紅梅・白梅の間

フリーマーケット

売上51万7千円！
11月12日(土)、13日(日)の2日間、晩秋のうらかな天候に恵まれ、平和の森公園で恒例のフリーマーケットを提供してくださった人をはじめ、品物を仕分けたり値付けをしたり準備作業や、当日の売り子をしたボランティア、また、自動車で荷物運び、さらにフリーマ終了後のゴミの回収など、協力いただいたすべての関係者に改めて感謝します。



2012年カレンダー
ご購入申し込み受付中。申し込みは電話かファックスで事務局まで。(申込用紙あり)

卓上型 600円
壁かけ型 700円
はがきサイズ卓上型

はせさんず各部門スタッフより 聞いて！ 聴いて！

<h4>会員制たすけあい活動</h4> <p>たすけあいは、はせさんずの本来事業！ たすけあい活動だけでは難しいので介護保険事業のようにサービスに見合った事業収入を得て、活動を支援している。どのNPOでも同様な台所事情。だから、株式会社では、たすけあい事業は本業とはしていない。なぜ活動しているのか？ それは、ひとえに安心して暮らせる地域社会づくりにある。日々活動を通じて利用者の笑顔を糧に！ (佐藤悟)</p>	<h4>ヘルパーステーション</h4> <p>大田区自立支援協議会が設置されて4年目になります。昨年度から4専門部会ができ、そのなかの相談支援部会・障害福祉情報サービス部会に委員として参加しています。個別支援会議のあり方や情報の流通などについて話し合っています。平成26年度に完成する「(仮称)障害者サポートセンター」が、大田区における支援の中核施設として、誰でもいつでも自由に集える場所になるよう願っています。(棧敷洋子)</p>	<h4>ケアサポート</h4> <p>穏やかな日が続いて震災の記憶も薄れがちです。ケアサポートでは以前より利用者の生活状況、身体状況に合わせて緊急カードの作成に取り組んでいましたが、一人暮らしの人も増え、今回の災害のように予想を大きく上回る被害が出たことを受け、緊急性の高い人が一目でわかるように赤、黄、白と色別にカードを作成。近所の人にも協力依頼予定。誰もが家族と連絡方法など決めておくといいですね。(金子由貴)</p>	<h4>デイホーム</h4> <p>9月に他施設で介護研修を受け改めて自分を見つめ直した。笑顔を忘れず、一人ひとりの声を聞くことを心がけ、利用者の体調を言葉から読み取る等の介護技術を身につけるように努力していきたい。午後はゲーム、デイホームではリハビリのために外出、各施設によって違いはあるものの、利用者最高の介護を提供する気持ちは同じ。体操はもっと取り入れたい。介護技術の向上に努めていきたいと思えます。(西條継子)</p>	<h4>元氣かい</h4> <p>今年も昨年に引き続きピアノとバイオリンのデュオコンサートを開催。演奏者の長松谷さん、気賀さんのお話は素人にもわかりやすく洒落なトークと気の合ったデュオの力強い演奏に、F・クライスラーの「美しきロスマリン」「愛の悲しみ」は貴婦人がダンスをしているような、「プレリウドとアレグロ」は力強いバイオリンでした。入場者は79人。30人からスタートした当時とは隔世の感があります。(中谷三郎)</p>
--	--	---	---	---